

上
京

史蹟と文化

美を創る

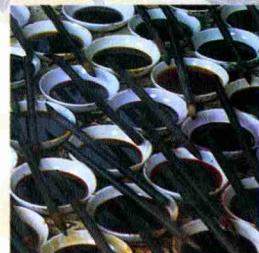
上京の史蹟

上京の大路小路 その（一）

講演 ■ お母さんありがとう
痴呆の母から学んで

第十六回上京区民文化フェスティバル
春の上京茶会

上京クイズ



美を創る

手描友禅挿彩色師

杉尾洋

京都市上京区新町通下長者町上る



京都における糸へんの地場産業といえば、西陣織と友禅染に尽きる。和服の需要の低迷から決して好調とはいえない業界ではあるが、その中にも色々として自らの技術を生かしながら新しい需要を求めるとする人々があられる。上京区にも、そのような伝統を受けつぐ職人たちの力量の誇りを見ることができよう。

四十七年にわたって友禅の挿彩色をつづけてこられた杉尾洋一さんも、その一人である。中学生のころから父親の巖氏の仕事を手伝いながら必然的に友禅職人の道に入られたという。

友禅の絵具が植物染料から化学染料に変わつても、その創始者である宮崎友禅斎の技法と道具を忠実に受けつぐのが伝統とされ、作業場は絵員のために適度の湿度を保ちながらも、生地に熱乾燥を加えるという真夏には酷な作業は続けられているが、今はクーラーのお蔭で楽をしていますと語つておられる。

友禅業界は分業で成り立っている。意匠の企画考案から始まり、



一枚の着物が仕立て上がるまでに少なくとも十五の工程、つまり十人以上の手が通ることによって完成される。杉尾さんの主な仕事は、その半ばどころの挿彩色である。糊置で引染をした反物に示された下絵の指示通り、細部の色を置いて行く作業に専念されている。数十枚の小皿に絵具をとき、その上に置いた筆を自由自在に操りながら、色を挿して行かれる業は永年の修行の結晶といえよう。

最近は悉皆屋からの指示による挿友禅だけでなく、自らの意匠による作品も手がけられるのが、仕事の途絶えたときの慰めだといわれる。業界の要職にあり、伝統工芸士をはじめ、京都市伝統産業技術功労者の栄誉を受けられながらも、運筆の技法を生かした素描や、ぬれ墨（ぼか）しの技術に優れ、美人画や時代に合わせた衣裳の柄や顔かたちの描写に腕をふるわれているのは、若い時に木村南風画伯らに鍛えられた感性と技術の冴えにあるのだと思わせられる。



「上京の史蹟シリーズ」

上京の大路小路

(その1)

今出川通

本誌創刊以来「上京の史蹟」として、上京区の通史を連載してまいりましたが、「上京区一二〇周年記念誌」に再録したこと、一応終了することとなりました。そこで、今回から想を改め、「上京の大路小路」と題して上京区の道を見直してみることとしました。まずは上京区役所のある今出川通から始めましょう。

三本をつないだ道

現在の今出川通の東端は銀閣寺の門前で、西端は西大路通を越えて京福電鉄北野線の両側の道に続きます。うち上京区に属るのは鴨川から紙屋川までの三・六キロ、区内では最も長い道です。ところが、この今出川通は市電を通すために一本の道となりましたが、元々は三本の異なる道が一本につな

がれ、さらに東西両端に新しい道が開かれて、昭和三十三年に至り銀閣寺道から白梅町まで市電今出川線がやつと全通しました。

さて、古い今出川通は河原町今出川あたりから西へ、京都御苑の北側を新町通の西あたりまででした。ちょうど上京区役所の前あたりで、広い今出川通が西北西の方向へ曲がり、その南側に細い道が残っていて西へ突き当たります。ここまでが江戸時代までの今出川通でした。

次が小川の東あたりから始まり、上七軒を経て北野天満宮の東門に至る須磨町通です。今では全くその地名を残していませんが、江戸時代の地図では見ることができます。明治初年の地図では、もう今出川通と呼んでいます。千本通から西は、それまでの十七メートル幅から二十二メートル幅の並木道となります。上七軒や千本釈迦堂に至る七本松通から、さらに南の道が今小路通なのです。東・西今小路町



賀茂大橋

出町

江戸時代、鴨川の西岸には御土居が築かれています。豊臣秀吉が賊軍と水害から京都の市街地を守るために築かせたことはよく知られていますが、街道筋の出入口として切り開かれたのが七口です。江戸中期に大原口または今出川口といわれたところにできた新



旧今出川通(左側)

地が出町でした。柳形という地名もその名残りで、御土居が城郭の柳形になつてゐたからです。今出川通は今の河原町今出川あたりから北へ折れ、寺町町から分かれた柳形通につながり、鴨川を出町橋で渡つたところが柳ノ辻で、そこが高野川東岸の大原街道と、東へ向かう白川街道との分岐点でした。大正十四年、叡山電車の起点として「出町柳」の駅名が生まれましたが、これは鴨川を挟む出町と柳の辻を一つにしましたのです。なお、今では中洲があつて出町柳と河合橋の二本の橋になつていますが、大正時代に埋立てて中洲を南へ延ばし、電車は河原町通から東へ新道を開き、賀茂大橋を渡ることになりました。昭和四年五月に銀閣寺道から百万遍まで開通した市電が賀茂大橋の完成により、昭和六年九月に至つて河

原町今出川までつながつたのです。

も優れた道標として京都市の登録文化財（史跡）となつています。

東面には「下かも五丁、比ゑい山三

リ、吉田十二丁、黒谷十五丁、真如堂十四丁、坂本越三リ」、南面は「かう

江戸時代、このあたりより南は伏見宮家の邸で、邸内にあつた妙音弁才天の祠が残されました。六角堂には弘法大師筆と伝える画像が祀られています。

今出川寺町の東北角の歩道に、幅四十七センチ、高さ百七十センチほどの大きな道標が見られます。東西南北の方角を示す大きな文字の下に、二十二カ所もの目的地名が距離とともに示されています。東西南北の大徳寺升三丁、今宮升六丁、五丁、金閣寺三十丁、御室一り升丁、祇園升二丁、清水升九丁、三条大橋十七丁、西側では「内裏三丁、北野升五丁、金閣寺三十丁、御室一り升丁、あたご三リ」とあり、北面になると「上御靈七丁、上加茂三十丁、くらま二リ半 大徳寺升三丁、今宮升六丁」

というように都会の道標らしく洗練された表示がなされています。一世紀余れおり、その下には慶應四年（一八六八）四月、地元の有志十九名によつ立てられた銘記があります。良質の花崗岩に刻まれた文字は流麗で美しく、年代は新しいながら全国的に見ても最

も使命を果たしているところに、生きた文化財としての価値を見出すことができるでしょう。この道標の示す通り、ここは大原口」という四つ角でした。

寺町今出川からやや西、京都御苑の石垣の東側から北へ、幸神社に突き当たる道を梨木通と称しています。梨木町に由来する名ですが、幸神社は平安京の鬼門として愛宕郡下出雲郷に道祖神を祀つたといい、本殿の東北隅には日吉山王の神使である御幣を担いだ猿の木像があり、さらに猿田彦神石もあります。



大原口道標



寺町から烏丸まで

梨木通の角から烏丸までの南側は低い石垣の上に低木が植えられ、歩道との間には排水溝があつて、明治以前からの姿のように思われますが、これは



冷泉家

今出川通りの北側は塔之段町から相国寺参道まで、二条家の屋敷と伏見宮家の御抱地があり、今では同志社の校地となっています。参道から西は藤谷家、冷泉家、山科家、徳大寺家、竹内家の屋敷が並び、その背後は相国寺の塔頭でした。冷泉家の邸宅は今に残る唯一の公家屋敷で、重要な文化財に指定されています。目下、全面的な保存修理が施されていますが、間もなく柿葺に復元された座敷棟などの優美な姿を目にすることができるでしょう。

明治二十年頃に公家屋敷の跡地を公園化したものを受けついでいるのです。今出川御門の東寄りに旧桂宮邸の築地塀が残されていますが、その昔の京都御苑の四周は公家屋敷の築地塀であり、内側は緑地ではなく、軒を接した公家の住宅密集地でした。

今出川通りの北側は塔之段町から相国寺参道まで、二条家の屋敷と伏見宮家の御抱地があり、今では同志社の校地となっています。参道から西は藤谷家、

冷泉家、山科家、徳大

寺家、竹内家の屋敷が並び、その背後は相国

寺の塔頭でした。冷泉家の邸宅は今に残る唯一の公家屋敷で、重要な文化財に指定されています。目下、全面的な保存修理が施されていますが、間もなく柿葺に復元された座敷棟などの優美な姿を目にすることができるでしょう。



今出川御門

南側は今出川御門の東に桂宮家、西に近衛家の邸がありました。桂宮家の御殿は明治二十七年に二条城本丸（当時は皇室の宿泊所としての二条離宮）へ移され、幕末の宮家御殿の遺構として重要文化財となっています。その跡地は宮内庁の官舎となっていますが、昔の宮家の面影を偲ぶことができます。

摂政関白に任せられる五摂家の近衛家は、その家格にふさわしく広大な屋敷を構えていました。その跡地は糸垂桜の咲き誇る公園となっており、そ

つては涸れていた近衛池も最近は水が戻り、往時の池庭廻遊式庭園を偲ぶことができます。

北側は緑の木立の間に赤い煉瓦が映え、南側は石垣と白い築地塀という対照的な風景も、今出川通になくてはならない風景となりました。

同志社の構内には五棟の重要文化財をはじめ、明治から昭和にかけて建築された多くの煉瓦造または煉瓦の外装をした校舎が見られます。これらの中には、京都帝国大学教授であった武田伍一が設計し、近く国の登録有形文化財となるジエームス館（大正二年）や栄光館（昭和七年）もあり、洋風建築群を見ながら散策するには最もふさわしいところでしよう。ついでに、雜踏を避けて相国寺の境内にも足を運びたいものです。

烏丸から堀川まで

今出川の東北角に「徒是東北足利將軍室町第址」という石標があり

ますが、その表示のように、ここから東北一帯が室町幕府の跡地なのです。現在、上京区総合庁舎のある堀出シ町というのも、室町幕府の濠があつたところだという伝えがあります。なお、

上京区総合庁舎の裏の駐車場に安政五年（一八五八）に立てられた「東上かも」「南左天満宮」「西東山」という道標がありますが、これも元はこの角にあったものです。

このあたりで注目したい建物は上京区総合庁舎です。昭和十二年に建てられましたが、一階から三階まで通しの



珍しい窓の上京区総合庁舎

細長い窓は官庁建築とは思えないスマートさが見られます。この部分は階段室なのですが、ステンドグラスまで嵌まっているのは、昭和年代のモダニズムを取り入れたのでしょうか。

この前の道は、はじめに書きましたように今出川通と須磨町通を結びつけた新道です。ここからは幅三間の道の南側を拡張して九間になりました。小川通の西側には、かつて小川が流れていました。名の通り幅四メートルほどの小さな川でしたが、古くは鴨川の上流から分かれて南へ流れ、一条戻橋の

ところで堀川と合流していました。その今出川通に架かる橋を羅漢橋といいましたが、今では全く忘れ去られています。

大きなオガタマノキのある白峯神宮を過ぎると堀川です。この川も上流が埋め立てられて今出川通の南から姿をあらわします。ここに架かっていたのが舟橋で、むかし舟橋家の屋敷があったところから舟橋町の名が起つたとも、橋の下に舟を繋いだとも、また高師直の館がありそこで舟遊びをしたからだとかいろいろな説があるようです。その舟橋も元は二間ほど小さな橋でした。堀川通は戦争末期に空襲による延焼を防ぐために、火除地として西側を大きく削られ、戦後、今のような五十メートル道路となりました。

堀川から千本まで

堀川今出川下ル西側、西陣織会館は、村雲御所といわれた瑞竜寺のあつたところです。また、今出川大宮には西陣織物館がありました。今では京都市の登録有形文化財となり、京都市考古資料館として活用されています。この前には「西陣」と大きく彫られた石碑が立っています。ここには三浦周行博士の撰文で西陣の伝統が述べられています。

耳鼻咽喉科

鈴木医院

〒602-8241 京都市上京区中立売通堀川西入

TEL (075) 441-0675



■診療時間

月・火・水・金
午前9:00~12:00
午後4:30~ 7:30
土
午前9:00~11:30まで
●休診 木・日・祝

花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。



FLOWER OFFICE
花工房

2F カフェ

全国どこへでもお花をお届けいたします。
京都市上京区烏丸通今出川下ル 〒602-0903
TEL 075-414-8700 (代) FAX 075-414-7787

す。バス待ちの間にでも、ゆっくり読まれることをおすすめします。

この付近には多くの銀行が支店を構えていました。第一勧業・住友・三和・協和・東海・富士・三和の各銀行に、地場産業の金融機関である西陣信用金庫が加わって、往時の西陣の旺盛な経



第一勧業銀行西陣支店

も京都には、この人の作品が残っています。その向かいにあつた旧住友銀行西陣支店は、びわこ銀行西陣支店として引き継がれています。大正十年に竣工したのでですが、この建物は格調のある銀行建築を目ざしていた住友工作部の設計になつ

濟の中心となっていたのです。今や、その大半が店を閉めてしまいました。その中には名建築といわれるものもあつたのですが、今残るのは今出川大宮東入の南側にある第一勧業銀行の西陣支店だけになりました。小規模な店舗ながら正面に列柱を配置し、いかにも銀行という感じがします。それもそのはずで設計者の西村好時は銀行建築の名手といわれた人でした。ほかに

も京都には、この人の作品が残っています。

ましよう。

さらに西、千本通に近くなると、嘉樂中学校の校地が見えます。この東に般舟院、西に般舟院陵があります。実はこの両所の間にある嘉樂中学校の校地のほとんどは、般舟院の境内であつたのです。明治の初めに境内を政府に上地されたあと、陵墓地としての般舟院陵と本尊を安置する堂宇が残されました。ここにある「禁裏道場跡」の碑は般舟院を記念するものです。

千本から紙屋川まで

千本今出川を中心にして、この一帯は映画館の非常に多いところでした。西陣織の華やかなころ、そこに働く人々にとって最大の娯楽は映画でした。今で

たもので、半円のアーチ窓や軒廻りの装飾に特色がありました。隣の西陣織物館とともに、今出川の修景としてなつてはならないものでした。

この表通りには問屋が軒を連ね、最盛期の上京区は、西陣で代表されるほどでした。今出川通から一筋裏へまわれば、賑やかな机織の音に、その繁栄を感じさせられたのです。今もこのあたりの小路を歩いていると機音が聞こえできます。その音を聞くと、今も西陣の伝統は健在なのだと感じさせられ

かつてはこのような大きなものではなかつたはずです。これは市電を通すための道路拡張によって、今のような状態になりました。大正元年に、今出川通の千本より東を烏丸まで、千本通を今出川から丸太町までを拡張して市電を走らせたからです。当時は人道の感覚がなく、電車の通るのも、車といいながら人力車や荷車、それに人も、同じ道を自由に歩いていたのでしよう。

その後、昭和四年に千本通を北へ、北大路まで市電が開通しました。西へは難問題があつたのです。東から来た今出川通は七本松通で上七軒へつながり、北野天満宮の東門に行き詰まります。千本釈迦堂に突き当たる七本松通り、北野天満宮の東門に行き詰まります。千本釈迦堂に突き当たる七本松通りの広い今出川通は全く新しい道で、それぞれの家が方形の敷地でないことでわかります。やがて、この道は北野天

満宮の大鳥居と西陣警察署の間に出てきます。

今でこそ、千本通から西大路通まで昔からの道のようにながっていますが、そうではなかつたのです。それで堀川下立売から中立売まで来ていた京都電鉄の狭軌路線を延長して、明治三十三年に中立売通を下ノ森まで走らせました。これは北野神社の大萬燈会に間にあわせたといわれていますが、それから先が大変だつたようです。家屋を立ち退かせ、斜めに北野神社前まで開通したのは明治四十五年のことでした。

京都電鉄の狭軌路線は、京都市電の創設により大正の終わりから昭和の初めにかけて次々と廃止されて行きますが、京都駅から西洞院・堀川・中立売を経由して北野まで走っていた出入口に扉のない電車を覚えておられる方も多いことと思います。この電車も昭和三十八年七月三十一日をもって営業を終了しました。

その前、市電の最後の路線が開通します。昭和三十二年四月三日、千本今出川から北野紙屋川町まで開通したのですが、そこで折り返していました。それは、今の西陣警察署の裏あたりに京福電鉄の北野駅があつて帷子の辻に

至る電車の始発点でした。その跡は今は確認できないほど変貌しています。

国民生活金融公庫の支店や、本門仏立宗の宗務本庁の建物は、その線路跡なのです。北野紙屋川町から白梅町までは、京福電鉄の線路を次駅の白梅町まで撤去する折衝が後れ、今の北野白梅町駅を京福電鉄の起点とするによつて、翌年の九月十六日に銀閣寺道から白梅町に至る今出川線が全通りました。

これも昭和五十一年三月三十一日をもつて営業を終了します。

この新しい道路ができたために、北野松原といわれていた北野天満宮の参道も分断されてしましました。その跡地が今では西陣警察署になったのです。紙屋川が上京区と北区の境になります。この川の東の堤防が、かつての御土居でした。今出川通から北は史跡として保存されていますが、これより南は早くに消



紙屋川町付近より東を眺む

滅してしまいました。御土居から外は洛外です。車の洪水となつてゐる今出川通も、こうして見直してきますと、長い歴史の積み重ねがあつたのです。

次回は南北の大路小路を取材する予定です。

尚、既刊の『上京区の史蹟百選』と併読していただければ幸いです。

マヤの遺跡

私たちが伝え残すのはこころです

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都市上京区烏丸通上御霊前上ル内横町
TEL.075-441-5408(代)

地域社会に貢献する

大阪陸運局自動車整備認証工場
株式会社 **土田モータース**
有限会社 **ツチダエージュンシ**

京・上・烏丸通寺の内上る647 TEL 062-0898 FAX (075)441-8121(代表)

〒602-0012 京都市上京区烏丸通上御霊前上ル内横町

TEL.075-441-5408(代)

■憲法月間のつどい（五月十三日）

講演

おかあさんありがとう 痴呆の母から学んで

箏演奏家

梶 寿美子

い話です。

六月二日に五十三歳になります。先ほど「障害を克服して」といわれたのですが、考えると自分で克服したことほとんどなかつたような気がします。たぶん小さい時から目が見えない私にとつては。昔は母が、この着物にはこの帯に、この帯締めにと着させてくれたのですが、母は今、痴呆症になつてしまい特別養護老人ホームにいる人です。

私は気が強かったのですが、身体が弱かったです。学齢までもたないだ手洗と公衆電話も母が教えてくれたのです。苦労させてなんて一緒にいる時は分かりませんね。

今になつて、あんなわがままを言えた人、お母さんだけやつたというのがわかりました。本当に情けな

ろうといわれてました。そこでお母さんは私がもし生きて行けないのであれば、音に興味を示したので中古の琴を買い、六歳の六月六日から習わせてくされました。盲学校ではお琴の勉強をさせるために音楽科を出て専攻科に二年行つて、それから大学へ行きました。大学を出て学校の先生になりたかつたのですが、京都府の採用試験も受けられなかつたのです。それで、お琴を教えることにしたんです。

その父が急死し生活も苦しくなりましたが、母と一生懸命働いて、毎月、福祉事務所にお金を返しに行くという目標に仕事をしました。そんな中でデューケエイセスとの演奏会を京都会館でさせていただきました。その時に私の仕事を手伝つてくれたのが今の主人なんです。主人は下京勤労者ホームの所長をしていました。主人には妻子が



ありました。私は一人で勝手に好きになりました。三年ぐらいいその思いを募らせました。私は一つの家庭を不幸にしてしまったんですけど、

それから三年後の昭和五十九年に今の東

山の家に着の身着のまで来てくれまし

た。私は「何日か経つて帰るんだつたら我慢する。もう一人で生きていくから」といつたんですが、主人は今まだここにいます。それから半年経つた六十年五月十九日、母のところへ主人の姉が今着ている着物を持ってくれたんです。それで初めて母が認めてくれたのが、この着物なんです。その半年後、やはり離婚はできなかつたのですから、母には反対されていたんですけども、主人の友達と私の生徒さん何人かにお願いして人前結婚式というのをしたんです。母は出てくれたんですけど、半信半疑だつたと思います。

その一年後、主人の子の一人が結婚すると同時に離婚が成立しまして、改めて平成三年に披露宴をしてもらうん



です。これは母がいつてくれて、白無垢を着せてくれ、私の家から主人と花嫁姿で表に出る。つまり今まで内縁だつたし、姓も別々、一緒になれるということで、皆にも知つてもらおう、生徒さんにも知つてもらおうということ

で、正式に会費制の結婚式をしました。

結婚式をして戻つた頃に、私は乳癌の手術をしました。右を切除したんです。抗癌剤のために軽いものでしたけど耳鳴りがしたり、口内炎ができたり、体がだるかつたりで、とても苦労しました。そんな中で今、母がお世話になつてゐる老人ホームに演奏会で行つたときに、母が痴呆症だと分かるんです。母は今の東山の家に行つて、私がそこに入ろうと思つても一よその家に入

るな」というんです。この千本出水が好きなんです。千本出水に行つても景色が変わつてゐるんです。家に帰りたい、帰りたいというんですけど、千本出水の家もなんないです。父のことも、目の悪い私の中も、亡くなつた兄のことも忘れてゐるんです。一生懸命まわりの辛さに耐えて私を育ててきた母は、今とても楽になつたんです。

生まれたときの赤ちゃんつて差別なんてないですよね。優しくしてくれた人が好きで、媚びてお上手してニコニコ笑いませんよね。本当に自分のことを思つてくれてゐるのかな、本当に心から尽くしてくれてゐるのかなということが一番分かる状態が痴呆者じやないかとおもつてゐるんです。

ルビノのレディースプラン
2,800円(税・サ別) ●ご予約制

大好評!

HOTEL Rubino ホテルルビノ京都堀川
〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
Tel.075-432-6161 / Fax.075-432-6160

☆第10回上京区民ふれあいまつりは、十月二十八日に元成逸小学校で催されます。

第6回 上京区民文化フェスティバル



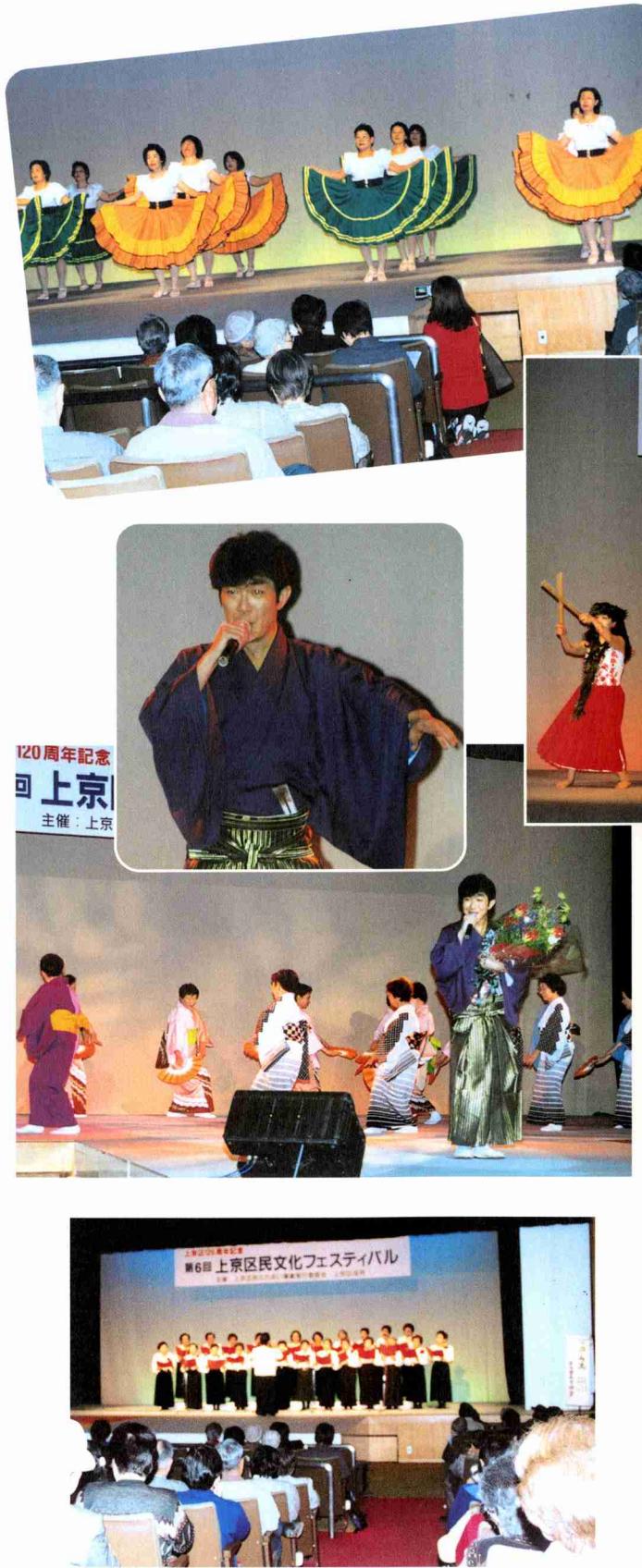
上京区120周年記念
第6回 上京区民文化フェスティバル
主催：上京区民ふれあい事業実行委員会・上京区役所



上京区民ふれあい事業実行委員会主催の「上京区民文化フェスティバル」も六回目を迎え、西陣織会館の西陣木一ルを会場に、三月五日に催されました。今回は新しく歌詞が補作された「上京首頭」を歌と踊でおひろめをしました。地元の方々の熱演に加えて、歌手の大林幸一さんと吉田桜子さんの熱唱に会場は大きく湧き上がりました。

PROGRAM

| | | | | | |
|----------------------|----------------------|---------------|---------------|------------------|-------|
| コーラス 「ふるさとの四季より」 | アイリス児童合唱団 | 民踊 京の四季・他 | 成逸女性会 | 歌踊舞踊 男・新門辰五郎 | 高木 恵子 |
| フラダンス マイリー・フラー・スタジオ杉 | 人形劇 三匹のコブタ 児童劇団やまびこ座 | 民踊 大文字音頭 | 合 同 | 社交ダンス ワルツ・ジルバ | 出水女性会 |
| ダンス ルンバ・ワルツ | 舞踊 佐渡おけさ | 民踊 広島木遣り | 琉球舞踊 安里屋ユンタ・他 | 琉球舞踊 安里屋ユンタ・他 | ゆうなの会 |
| 民踊 球磨の六調子 | 京極女性会 | コーグラス 下町の太陽・他 | 乾隆女性会 | 乾隆女性会 | 乾隆女性会 |
| 歌謡舞踊 お島千太郎 | 翔鸞婦人会 | 民踊 花笠音頭 | 室町女性会 | フォークダンス ヒネマトフN°2 | 西陣女性会 |
| 高木恵子・他 | | コーグラス 下町の太陽・他 | | フォークダンス ヒネマトフN°2 | |
| ダンス・ポヒュレーヌ・プリバ | | 民踊 花笠音頭 | | 歌謡ショージ | |
| ダンス・ポヒュレーヌ・プリバ | | 室町女性会 | | 大林 幸一・吉田 桜子 | |
| 歌謡シヨー | | | | 西陣女性会 | |
| フィナーレ 上京音頭 | | | | | |
| 全 員 | | | | | |



☆第三十六回上京区民薪能は、九月二十一日に白峯神宮で行われます。

春の上京茶会

恒例の春の上京茶会は六月四日に、上京区文化振興会と上京区役所が主催して、大徳寺山内の瑞峯院で開かれました。表千家家元の懸釜により伝来の茶器が用いられる中、五百人の上京区民や観光客らが、本席の餘慶庵と室町時代に建てられた重要文化財の方丈の副席で忙びの境地に浸りました。



会記（本席 餘慶庵）

掛物 剛堂和尚筆 山雲海月 碓々斎箱

別床 若水の絵 橫物 自筆涼風

花入 有馬製 ヒナ鶴籠

香合 鎌倉彫牡丹 惺齋在判 同箱

釜 惺齋好 刷毛目切合

風炉 ツボソボ透し

風呂先屏風 御好淺黃大高 日月腰

黒搔合せ長板

水指 デルフト 草花紋藍絵

茶器 即中斎好 木賊蒔絵 黒大壺

茶碗 惺入作 黒井戸形

銘青嵐
即中斎箱

一閑作 即中斎箱

替仁清写 水車ノ絵

即全造 即中斎箱

茶杓 即中斎 共筒 田植歌 同箱

建水 御好 尊形 清右衛門作

蓋置 竹引切 惺齋在判

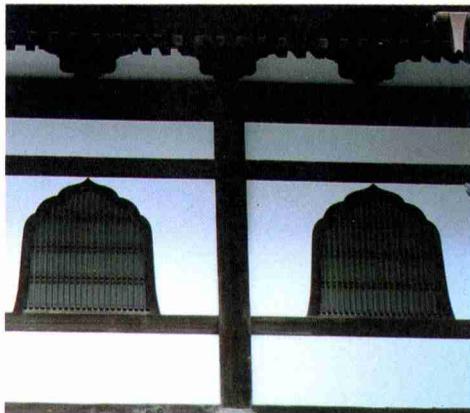
菓子くず焼 曙月製

御茶御好 珠の白 柳桜園詰

上京クイズ

前回の正解は、

古義堂です。



これはどうござみう？

○応募締切 平成十二年九月三十日

解答と住所・学区・氏名・電話番号
をご記入の上

〒六〇二一八五一

京都市上京区今出川通室町西入

上京区役所地域振興課内

『上京・史蹟と文化』編集係宛

ハガキでお送り下さい。

○正解者の中から抽選にて二〇名の方
に記念品をお送りします。

お願い！本誌をお読みになつた、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。（ご投稿の方に粗品贈呈）

江戸時代初期の儒者、伊藤仁斎は、儒学の原形ともいえる古義学を町人にもわかる学問として広めました。その宅跡を古義堂といい、東堀川出水下ルに国の史跡として保存されています。

その学問は子の東涯に受けつがれ、堀川学派といわれました。今残る二階建の土蔵は仁斎在世当時の書庫で、当時の面影を伝えています。

○編集を担当してから、この小冊子も十年目となりました。ぼつかつ型にはまり過ぎて来たのではないかなど反省されます。

○「上京の史蹟」は、装を新たに区民のお住まいになっている道の今昔を語りたいと企画しました。京の大路小路を歩きつづけたいと思っています。

○「美を創る」の取材をしていましたと、京都の伝統産業を担う方々の修業の深さを感じさせられます。この人こそという方があれば、推薦していただきたく思います。

公益社

葬祭センター

●葬儀式場

堀川公益社・京都市中京区堀川通六角 ☎(075)241-4440代 公益社中央プライトホール/京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555代
中公益社・京都市東山区五条通東大路東入 ☎(075)551-0042代 公益社北プライトホール/京都市北区紫明通堀川東入ル ☎(075)414-0420代
南公益社・宇治市槇島町（文教大学前） ☎(0774)20-0042代 公益社槇島会館/宇治市槇島町（文教大学前） ☎(0774)20-0142代
滋賀公益社・大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代 公益社滋賀会館/大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代

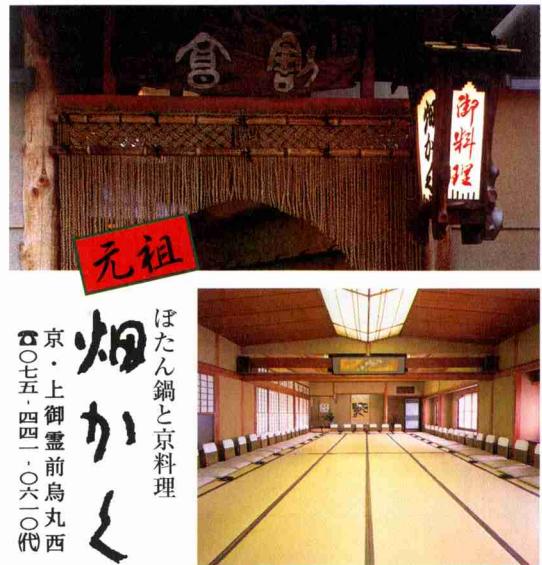
編集後記



永年の信用と実績・真心のご奉仕

本 社・京都市中京区烏丸三条下ル ☎(075)221-4000代

堀川公益社・京都市中京区堀川通六角 ☎(075)241-4440代 公益社中央プライトホール/京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555代
中公益社・京都市東山区五条通東大路東入 ☎(075)551-0042代 公益社北プライトホール/京都市北区紫明通堀川東入ル ☎(075)414-0420代
南公益社・宇治市槇島町（文教大学前） ☎(0774)20-0042代 公益社槇島会館/宇治市槇島町（文教大学前） ☎(0774)20-0142代
滋賀公益社・大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代 公益社滋賀会館/大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代



上京区民の文化的情操を高めるのが 上京区文化振興会の使命です。

発足以来40年余、上京区民の文化人によって組織され、
文化振興に尽くしてきました。

- 上京区在住の能楽・狂言の人間国宝の至芸が間近に見られる
上京区民薪能もすでに36回目

